

石油燃焼機器の過去の事故一覧 ①FF式石油暖房機 および 半密閉式石油暖房機

| No | メーカー名 | 事故発生年月日 | 品 目 | 型式機種 | 被害区分 (注) | 事故内容 | 製品の 使用期間 | 事故原因 | | | | 調査期間 | 備 考 |
|----|-----------|---------|-----------|------------|-------------|---|---------------|---|----------|-----|--------------------|------------------|--------|
| | | | | | | | | 内 容 | 製品 起因 | 誤使用 | 原因不明 または 調査中 | | |
| 1 | サンボット(株) | 2006 | FF式石油暖房機 | FF-551KF | ④ | ストーブ焼損、壁、ソファァー絨毯汚損 | 7年 | 点検整備後火災発生。点検時送油ナット締め忘れで油漏れ。 | | | | 1969年4月～2006年12月 | |
| 2 | サンボット(株) | 1996 | 半密閉式石油暖房機 | KSH-119RC | ④ | 機器・ジュータン | 3年 | 機器内多量の綿埃送風機含む。逆火 | | ○ | | 1969年4月～2006年12月 | |
| 3 | 松下電器産業(株) | 2006 | FF式石油暖房機 | OK-902B | 該当せず | 機器内部焼損 | 不明 | 修理ミスかどうかも含め調査中 | | | ○ | 1987年1月～2006年12月 | |
| 4 | (株)コロナ | 2006 | FF式石油暖房機 | FF-V45M | ④ | 寝室を暖める為に石油ストーブをつけたところ、排気筒部が過熱し、壁の一部を焼損した。 | 不明 | 焼損が激しく発生原因を特定することが困難。 | | | 原因不明 処理済 | 1995年4月～2006年12月 | |
| 5 | 松下電器産業(株) | 2006 | FF式石油暖房機 | OK-902B | 該当せず | 機器内部焼損 | 不明 | 炎がルーバーに反射し火災と誤認 | | | | 1987年1月～2006年12月 | |
| 6 | (株)トヨトミ | 2006 | 半密閉式石油暖房機 | HS-6AR-1 | ④ | 平成18年2月中に本組合管内で発生した火災において、原因が石油ストーブの使用法の不良と判定し消防法第31条に基づき火災調査を行なっている段階。油量位置は微小-止の中間。使用状況は、かなり小火力の状態で使用していたと思われる。(取説、油調器の位置照会) | 不明 | 取扱説明書、油量調節器位置情報提供。事故に関する情報が無く詳細は不明である。 | | | ○ | 1981年4月～2006年12月 | |
| 7 | (株)コロナ | 2006 | FF式石油暖房機 | UH-F70PAK6 | ④ | 木造2階建て住宅から出火し、居間の壁などを焼いた。 | 不明 | 消防の調査では、石油ストーブの上方に干していた洗濯物がストーブの上に落下して着火し、出火に至ったものとみている。 | | ○ | | 1995年4月～2006年12月 | |
| 8 | サンボット(株) | 2006 | FF式石油暖房機 | FF-101BF-2 | ④ | 機器焼損、床壁汚損 | 12年 | 給排気筒の雪埋もれ、及び異常のまま使用 | | ○ | | 1969年4月～2006年12月 | |
| 9 | 松下電器産業(株) | 2006 | FF式石油暖房機 | OK-3537 | ④ | 製品焼損、周辺消火器汚損 | 不明 | NITEで現在調査中 | | | ○ | 1987年1月～2006年12月 | |
| 10 | 松下電器産業(株) | 2005 | FF式石油暖房機 | OK-2525 | ② | C0中毒1人重症 | 不明 *(約19年) | 修理後の2次エアホースのはずれ (はずれた原因は 警察で捜査中) | | | ○ | 1987年1月～2006年12月 | リコール製品 |
| 11 | 松下電器産業(株) | 2005 | FF式石油暖房機 | OK-3537 | ① | C0中毒1人死亡、 1人重症 | 不明 *(約17年) | 2次エアホースの経年劣化による亀裂と給排気筒の変形等による燃焼不良の複合要因と推定 | | | ○ | 1987年1月～2006年12月 | リコール製品 |
| 12 | (株)コロナ | 2005 | FF式石油暖房機 | UH-F65AK | ④ | 木造平屋建て住宅から出火し、居間約10平方メートルを焼いた。 | 不明 | 消防の調査では、石油ストーブを使って洗濯物を乾かしていたところ、洗濯物がストーブの上に落下し、火災に至ったものとみている。 | | ○ | | 1995年4月～2006年12月 | |

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

| № | メーカー名 | 事故発生日 | 品目 | 型式機種 | 被害区分 (注) | 事故内容 | 製品の 使用期間 | 事故原因 | | | | 調査期間 | 備考 |
|----|---------|-------|-----------|-------------|-------------|--|---------------|--|----------|-----|--------------------|------------------|--------|
| | | | | | | | | 内容 | 製品 起因 | 誤使用 | 原因不明 または 調査中 | | |
| 13 | サンボット㈱ | 2005 | FF式石油暖房機 | FF-15G9(U) | ④ | ストーブ背面の壁一部焼損 | | 電源コードが排気管上にあり、接触しショート | | ○ | | 1969年4月～2006年12月 | |
| 14 | サンボット㈱ | 2005 | FF式石油暖房機 | UFH-501UBF | ④ | 0.6㎡焼損 | | 不明 | | | ○ | 1969年4月～2006年12月 | |
| 15 | 松下電器産業㈱ | 2005 | FF式石油暖房機 | OK-3527 | ③ | C0中毒3人、 内2人入院 | 約16年 | 2次エアホースの経年劣化による亀裂と給気サーミスタの故障による送風量低下等の複合要因 | ○ | | | 1987年1月～2006年12月 | リコール製品 |
| 16 | 松下電器産業㈱ | 2005 | FF式石油暖房機 | OK-3527 | ③ | C0中毒2人入院 | 約14年 | 2次エアホースの経年劣化による亀裂と送風機のベアリング錆による送風量低下等の複合要因 | ○ | | | 1987年1月～2006年12月 | リコール製品 |
| 17 | 三菱電機㈱ | 2005 | FF式石油暖房機 | VKN-30XT | ④ | 火災 | 1978～2005 | 灯油抜き取り時にこぼした灯油に、電源コードのプラグによる発火が引火(警察・消防の見解)。警察署・消防署の調査に協力した。 | | | 製品起因でない | 1975年4月～2006年12月 | |
| 18 | サンボット㈱ | 2005 | FF式石油暖房機 | FF-53TS | ④ | ストーブ背面の壁一部焼損 | 4年 | 点検直後の火災で、点検不良 | | | | 1969年4月～2006年12月 | |
| 19 | ㈱コロナ | 2005 | FF式石油暖房機 | FF-GX55M | ④ | 木造2階建て住宅から出火、約3平方メートルを焼いた。 | 不明 | 消防の調査では、洗濯物が石油ストーブの前面に落下し、出火したものとみている。 | | | ○ | 1995年4月～2006年12月 | |
| 20 | 三洋電機㈱ | 2005 | FF式石油暖房機 | CFE-8100E | ③ | 地区公民館において、3名が一酸化炭素中毒。 | 約27年 | 何らかの理由で、排気筒が外れたものと思われるが、原因は不明。 | | | ○ | 1986年1月～2006年12月 | |
| 21 | 松下電器産業㈱ | 2005 | FF式石油暖房機 | OK-3527HA | ① | C0中毒1人死亡、 1人重症 | 不明 *(約14年) | 2次エアホースの経年劣化による亀裂とその他の複合要因と推定 | | | ○ | 1987年1月～2006年12月 | リコール製品 |
| 22 | ㈱トヨトミ | 2004 | FF式石油暖房機 | FFA-301 | ④ | 学生寮全焼 2名軽症 詳細情報無し。 | 不明 | 照会事項回答。事故に関する情報が無く詳細は不明である。 | | | ○ | 1981年4月～2006年12月 | |
| 23 | ㈱コロナ | 2004 | FF式石油暖房機 | UH-F65MR5 | ④ | 木造2階建て住宅兼店舗から出火、約377平方メートルを全焼し、家人が軽傷を負った。 | 不明 | 消防の調査では、床暖房石油ストーブより出火したものとみているが、焼損が著しいため原因の特定はできなかった。 | | | 原因不明 処理済 | 1995年4月～2006年12月 | |
| 24 | サンボット㈱ | 2004 | 半密閉式石油暖房機 | KSH-10BS-K5 | ② | 爆燃で、やかん転倒し、2名両足の付け根から足先まで火傷。 | 6年 | 屋外煙突に立ち上げがなく、逆風・爆燃で載せていたやかんが転倒 | | | ○ | 1969年4月～2006年12月 | |
| 25 | ㈱コロナ | 2004 | FF式石油暖房機 | UH-F70PAK7 | ④ | 木造一部2階建て住宅から出火、約165平方メートルを全焼し、家人が煙を吸って病院で手当を受けた。 | 約1年 | 消防の調査では、居間に干していたタオルが石油ストーブの上に落下したために、タオルにストーブの火が着火し、火災に至ったものとみている。 | | | ○ | 1995年4月～2006年12月 | |

注1：事故発生日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

| № | メーカー名 | 事故発生日 | 品目 | 型式機種 | 被害区分 (注) | 事故内容 | 製品の 使用期間 | 事故原因 | | | | 調査期間 | 備考 | |
|----|--------------|-------|-----------|---------------|-------------|--|-------------|--|----------|-----|--------------------|------------------|------------------|--|
| | | | | | | | | 内容 | 製品 起因 | 誤使用 | 原因不明 または 調査中 | | | |
| 26 | 日立アプライアンス(株) | 2004 | FF式石油暖房機 | KH-J90 | ④ | 保育園へ設置されたクリアヒーター後部より出火し、消火器3本で鎮火。消火器による室内汚損、コンセント周辺の焦げがあった。 | 9年9ヶ月 | 消防へ調査結果を報告。電源コードプラグ刃間のトラッキングにより発火、製品背面の埃に着火し延焼と推定される。 | | ○ | | 1963年8月～2007年1月 | | |
| 27 | 株コナ | 2002 | FF式石油暖房機 | FF-GX6SK | ④ | 木造一部2階建て住宅の居間兼台所付近から出火し、約100平方メートルを全焼した。 | 約2年3月 | 消防の調査では、石油ストーブの上で乾かしていたこたつ敷き布団が落下したため着火し、出火に至ったものとみている。 | | ○ | | 1995年4月～2006年12月 | | |
| 28 | サンポット(株) | 2002 | 半密閉式石油暖房機 | KSH-10BS-KT5 | ④ | 10㎡焼損 | | 不明 | | | ○ | 1969年4月～2006年12月 | | |
| 29 | サンポット(株) | 2002 | FF式石油暖房機 | UFH-501UBF(W) | ④ | 13㎡の居間焼損 | 2ヶ月 | 業者修理中の一次放置中に火災発生による点検ミス | | | | 1969年4月～2006年12月 | | |
| 30 | サンポット(株) | 2002 | 半密閉式石油暖房機 | UFH-116MD | ①④ | 1階60㎡焼損、死亡1名 | | 使用者が分解修理中に火災発生 | | ○ | | 1969年4月～2006年12月 | | |
| 31 | 株コナ | 2001 | FF式石油暖房機 | FF-65A0 | ④ | 木造一部2階建て車庫併用住宅から出火し、1階居間約9.9平方メートルを焼き、家人が窓ガラスを素手で破った際、右手に軽傷を負った。 | 約7年11月 | 消防の調査では、住宅1階居間で、カーテンレールに衣類を吊してストーブで乾かしていたところ、カーテンレールの取付金具の片方が外れ、ストーブ裏側の給排気筒に衣類が落下し、ストーブ給排気筒に衣類が過熱され、着火したものとみている。 | | ○ | | 1995年4月～2006年12月 | | |
| 32 | サンポット(株) | 2001 | FF式石油暖房機 | FF-90RF(SG) | ④ | 壁及び天井の一部焼損 | 7年 | 不明 | | | ○ | 1969年4月～2006年12月 | | |
| 33 | 株コナ | 2001 | FF式石油暖房機 | FF-VT42P | ④ | 2階にあった石油ストーブから出火し、木造2階建て住宅の内部を全焼した。女児1人が逃げる際に顔に軽い火傷を負った。 | 不明 | 消防の調査では、ストーブ付近から出火したものとみて、ストーブ内部を調べたところ、電気回路に短絡痕があり、事故時にはストーブに通電されていたとみられるものの、出火元がストーブとは特定できなかった。 | | | ○ | 原因不明 処理済 | 1995年4月～2006年12月 | |
| 34 | 三洋電機(株) | 2000 | FF式石油暖房機 | CFF-V151A | ③ | 園児(11名)が軽いCO中毒で病院に搬送。 | 不明 | 屋外の排気筒から鳥が入って巣を作り、排気ガスが室内へ逆流したものと見られ、取扱上の不注意とのこと。 | | ○ | | 1986年1月～2006年12月 | | |
| 35 | サンポット(株) | 2000 | FF式石油暖房機 | UFH-78UAF | ④ | 壁紙、ふすまなど0.3㎡焦がした | | 洗濯物落下 | | ○ | | 1969年4月～2006年12月 | | |
| 36 | サンポット(株) | 2000 | FF式石油暖房機 | FF-63RF | ④ | 機器及び背面壁焼損 | 3年 | 定油面器内錆発生による油オーバーフロー | | ○ | | 1969年4月～2006年12月 | | |
| 37 | 三洋電機(株) | 1999 | FF式石油暖房機 | CFF-6101B | ① | 一酸化炭素中毒で女性1名死亡。 | 不明 | 何らかの理由で、排気筒が外れたものと思われるが、原因は不明。 | | | ○ | 1986年1月～2006年12月 | | |

注1：事故発生日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

| № | メーカー名 | 事故発生年月日 | 品目 | 型式機種 | 被害区分(注) | 事故内容 | 製品の 使用期間 | 事故原因 | | | | 調査期間 | 備考 |
|----|----------|---------|-----------|------------|---------|---|-------------|--|----------|-----|--------------------|------------------|---------------|
| | | | | | | | | 内容 | 製品 起因 | 誤使用 | 原因不明 または 調査中 | | |
| 38 | サンボット(株) | 1999 | FF式石油暖房機 | FF-62RF-1 | ④ | 消火後小火、119.54㎡の内26.4㎡焼損 | 5日 | 不明 | | | ○ | 1969年4月～2006年12月 | |
| 39 | 株コロナ | 1999 | 半密閉式石油暖房機 | SV-85SA | ④ | アパートの一室から出火し、内部約10平方メートルを焼いた。家人の1人が煙を吸い、軽傷を負った。 | 不明 | 消防の調査では、被害者がストーブの燃焼室にポンプで直接灯油を給油し、かなりの灯油量を入れており、さらにマッチで点火後、燃焼室のふたを閉じていなかったため炎が吹き出し、周囲の壁に燃え移ったものとみている。 | | | ○ | 1995年4月～2006年12月 | |
| 40 | 株トヨトミ | 1999 | 半密閉式石油暖房機 | HR-686 | --- | ストーブの上にプラスチックの製品を置いてあったまま、誤ってストーブの電源スイッチをONにした為、プラスチックの製品が燃えて、本人は軽いCO中毒で入院(消防局からの情報) | 不明 | 「誤使用」 | | | ○ | 1981年4月～2006年12月 | |
| 41 | 株コロナ | 1999 | FF式石油暖房機 | FF-65AM2 | ④ | 1階居間兼台所の石油ストーブ付近から出火、木造一部2階建て住宅約99平方メートルを全焼し、隣接するアパートの壁などを焼いた。 | 不明 | 消防の調査では、石油ファンヒーター付近から出火したとみているが、事故品の損傷が著しく、原因の特定はできなかった。 | | | 原因不明 処理済 | 1995年4月～2006年12月 | |
| 42 | 三菱電機(株) | 1999 | FF式石油暖房機 | VKB-30E2 | ① | CO中毒とみられる。 1名死亡。 | 1978～1999 | 排気管の接続部が外れた状態で使用されていた(警察見解)。 | | | 工 事 不 良 | 1975年4月～2006年12月 | |
| 43 | 三菱電機(株) | 1999 | FF式石油暖房機 | VKB-601BD | ④ | 布団の焦げ | 1993～1999 | 原因不明。たばこ推定(PLセンター見解) | | | 製品起因でない | 1975年4月～2006年12月 | |
| 44 | 株コロナ | 1998 | 半密閉式石油暖房機 | 不明 | ④ | 住宅から出火、木造2階建て約80平方メートルの内部を全焼し、隣接する木造の納屋の一部も焼いた。 | 不明 | 警察の調査では、石油ストーブと灯油貯蔵タンクをつなぐゴムホースに亀裂が生じ、その亀裂から灯油が漏れていたことに気づかず石油ストーブをつけたまま外出したため、外出中にストーブの火が漏れた灯油に引火し、火災になったものとみている。 | | | ○ | 1995年4月～2006年12月 | |
| 45 | 株コロナ | 1998 | FF式石油暖房機 | FF-V30M | ④ | 木造2階建て住宅の2階寝室から出火し、布団1枚を焦がした。 | 約3年8月 | 消防の調査では、石油ストーブのスイッチが何らかの原因で入り、ストーブ前面に接していた布団ケースに着火したものとみているが、スイッチが入った原因の特定はできなかった。 | | | 原因不明 処理済 | 1995年4月～2006年12月 | |
| 46 | サンボット(株) | 1998 | FF式石油暖房機 | FF-32RF(W) | ④ | 床、壁、カーテン焼損 | 6ヶ月 | 不明 | | | ○ | 1969年4月～2006年12月 | |
| 47 | 株コロナ | 1997 | 半密閉式石油暖房機 | SV-40ST | ④ | 木造2階建てアパートの一室から出火し、延べ160平方メートルのうち、同室の布団と床の一部を焼き、被害者が手や頭などに火傷をした。 | 不明 | 消防の調査では、石油ストーブの近くにあった敷布団にストーブの火が引火し、燃え移ったものとみている。 | | | ○ | 1995年4月～2006年12月 | |
| 48 | 株コロナ | 1997 | FF式石油暖房機 | FF-403S | 該当しない | 3年前に移設し、本年2月に白煙が出たため修理を行ったFF形ストーブから灯油があふれ出て、受け皿をこえて畳までしみこんだ。事故当時は未使用状態であったが、突然音がして灯油があふれたので、外の油タンクのバルブを締めて油の流出を止めた。 | 約5年 | 事故品を移設した際、送油用のゴムホースの取り付け方が、油タンクから銅パイプに直結され、その部分でゴムホースが90度曲げられ、さらにU字形に曲げられて本体に接続されていたため、ゴムホースに負荷が常時かかった状態となり、疲労のため、ゴムホースに亀裂が入り、そこから灯油が流出したものと推定される。 | | | 工 事 不 良 | 1995年4月～2006年12月 | 事故原因は 工事不良 |
| 49 | 株コロナ | 1997 | FF式石油暖房機 | FF-1006S | ④ | 木造2階建て住宅から出火、約90平方メートルのうち1階の内部約40平方メートルを焼き、逃げる際、男性1人が軽傷を負った。 なお、出火約1時間前に石油ストーブが点火するようタイマーでセットされていた。 | 約1年 | 消防の調査では、マントルピース内に設置されていた石油ストーブの吸気ホースがほとんど焼失していることから、吸気ホースが排気管に接触し過熱され出火に至ったか、又は電気配線の短絡により出火したかのいずれかとみているが、原因の特定はできなかった。(当該製品はマントルピースに設置不可のタイプ) | | | 工 事 不 良 | 1995年4月～2006年12月 | 事故原因は 工事不良 |

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

| № | メーカー名 | 事故発生日 | 品目 | 型式機種 | 被害区分 (注) | 事故内容 | 製品の 使用期間 | 事故原因 | | | | 調査期間 | 備考 |
|----|--------------|-------|-----------|-------------|-------------|---|-------------|---|----------|---------|--------------------|------------------|----|
| | | | | | | | | 内容 | 製品 起因 | 誤使用 | 原因不明 または 調査中 | | |
| 50 | サンボット(株) | 1997 | 半密閉式石油暖房機 | KSH-10BS-K | ②④ | 1室焼損・火傷 | | 灯油をビンで直接バーナに入れてマッチで点火し、燃焼リンセット時、腕に火移りし、燃焼リングを部屋に投げてしまった。 | | ○ | | 1969年4月～2006年12月 | |
| 51 | サンボット(株) | 1996 | 半密閉式石油暖房機 | KSH-119AC | ④ | 機器・床 | 5ヶ月 | 誤使用(換気扇使用逆火) | | ○ | | 1969年4月～2006年12月 | |
| 52 | 松下電器産業(株) | 1996 | FF式石油暖房機 | OK-3520A | ① | CO中毒4人死亡 | 不明 | 設置工事不良(傾斜フランジなし)と給排気トップ周囲除雪なしの複合要因 | | ○ | | 1987年1月～2006年12月 | |
| 53 | サンボット(株) | 1996 | FF式石油暖房機 | UFH-71UDF | ④ | 全焼 | 3ヶ月 | 誤使用(可燃物落下) | | ○ | | 1969年4月～2006年12月 | |
| 54 | サンボット(株) | 1995 | 半密閉式石油暖房機 | KSH-79RC | ④ | 2階全焼 | 1年1ヶ月 | 機器内の埃 | | ○ | | 1969年4月～2006年12月 | |
| 55 | サンボット(株) | 1995 | 半密閉式石油暖房機 | KSH-10BS-KT | ④ | 機器操作部・床 | | 夏場不使用時での火災 | | ○ | | 1969年4月～2006年12月 | |
| 56 | 日立アプライアンス(株) | 1995 | FF式石油暖房機 | KH-H90 | ④ | 印刷工場より出火し、木造平屋建て約100m ² の内、壁や天井等約10m ² が焼けた | 不明 | 印刷機の機械がある工場で掃除をするのに製品を強くゆずって引っ張った為排気管が外れた。それを知らずにタイマーセット。翌朝8:30頃出火。 | | ○ | | 1963年8月～2007年1月 | |
| 57 | 三菱電機(株) | 1994 | FF式石油暖房機 | VKB-451ED | ① | 火災による。 2名死亡。 | 1994～1994 | 機器は運転状態ではなかったことから、火災原因は機器以外(消防署見解) | | 製品起因でない | | 1975年4月～2006年12月 | |
| 58 | 三洋電機(株) | 1993 | FF式石油暖房機 | CFE-6100E | ③ | 2名が一酸化炭素中毒になった。 | 不明 | 給排気トップに覆いをかけ使用したため、不完全燃焼を起こし、排気ガスが室内に漏れた。 | | ○ | | 1986年1月～2006年12月 | |
| 59 | 三洋電機(株) | 1992 | FF式石油暖房機 | CFE-8100F | ③ | 11名が一酸化炭素中毒になり、内1名が入院。 | 約13年 | 何らかの理由で、排気筒が外れたものと思われるが、原因は不明。 | | ○ | | 1986年1月～2006年12月 | |
| 60 | 三洋電機(株) | 1992 | FF式石油暖房機 | CFE-R507 | ① | 火災による1名の死亡事故 | 不明 | 消防局の調査では、洗濯物等の落下により出火したものとみている。 | | ○ | | 1986年1月～2006年12月 | |
| 61 | 松下電器産業(株) | 1992 | FF式石油暖房機 | OK-6023 | ④ | 1階・2階が火災 | 不明 | 原因不明 | | ○ | | 1987年1月～2006年12月 | |
| 62 | 三菱電機(株) | 1992 | FF式石油暖房機 | VKB-40ETM2 | ③ | CO中毒とみられる。 入院。 | 1979～1992 | 給排気筒トップのキャップ(使用しない排気口塞ぎ用キャップ)が外れていた。工事不良と推定(当社見解、警察へ説明)。 | | 工事不良 | | 1975年4月～2006年12月 | |

注1：事故発生日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故(治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病)又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故(医師の診断が下されたもの)、④火災(消防が火災として確認したもの)

| № | メーカー名 | 事故発生日月 | 品目 | 型式機種 | 被害区分 (注) | 事故内容 | 製品の 使用期間 | 事故原因 | | | | 調査期間 | 備考 |
|----|-----------|--------|-----------|------------------------------|-------------|--------------------------------------|-------------|---|----------|-----|--------------------|------------------|-------------------------------|
| | | | | | | | | 内容 | 製品 起因 | 誤使用 | 原因不明 または 調査中 | | |
| 63 | 三菱電機(株) | 1991 | FF式石油暖房機 | VKB-60FS | ④ | 火災 | 1983～1991 | 原因不明。排気筒付近(消防、警察見解) | | | ○ | 1975年4月～2006年12月 | |
| 64 | 三洋電機(株) | 1991 | FF式石油暖房機 | CFP-8100F | ③ | 中学校の技術室において34名が気分が悪くなり、頭痛・吐き気をもよおした。 | 約10年 | 給排気トップに接続されている吸気ホースの先端が機器本体の排気口に接続されていたため、熱で吸気ホースが溶けて、排気ガスが室内に流出した。 | | | | 1986年1月～2006年12月 | 工事不良 |
| 65 | 松下電器産業(株) | 1991 | FF式石油暖房機 | OK-4520 | ③ | CO中毒 1人入院 | 約10年 | 施工不良(排気管はずれ) | | | ○ | 1987年1月～2006年12月 | |
| 66 | サンデン(株) | 1991 | FF式石油暖房機 | KH-051FFT | ④ | 火災事故 | 6年 | 顧客再設置時の給排気筒の設置ミス(給気口が壁の中に入った)による、給気経路への逆火と報告。消防署に報告受理された。 | | | ○ | 1980年1月～2007年1月 | 製品の使用期間は該当品製造年から事故発生日までの期間を記載 |
| 67 | サンデン(株) | 1990 | 半密閉式石油暖房機 | KS-105EDT | ④ | 火災事故 | 8年 | 使用上の問題(送油ホース外れ)でストーブ周囲可燃物に引火と報告。消防署に受理された。 | | | ○ | 1980年1月～2007年1月 | 製品の使用期間は該当品製造年から事故発生日までの期間を記載 |
| 68 | 三洋電機(株) | 1990 | 半密閉式石油暖房機 | CFR-35C | ① | 不完全燃焼で一酸化炭素中毒死。 | 約3ヵ月 | 警察の見解では、煙突の設置不良(横引きが異常に長い)による凍結・閉塞による不完全燃焼で起きた中毒死である、とのこと。 | | | ○ | 1986年1月～2006年12月 | |
| 69 | 松下電器産業(株) | 1989 | FF式石油暖房機 | OK-3520 | ① | CO中毒1人死亡 | 不明 | 施工かメンテナンス不良で給排気筒キャップはずれ | | | ○ | 1987年1月～2006年12月 | |
| 70 | 株トヨトミ | 1989 | 半密閉式石油暖房機 | HS-8AK-10 | ① | 家屋全焼 3名窒息死。詳細情報無し。 | 不明 | 取扱説明書他資料提出。「煙突が新聞紙で塞がれていたとの回答があった」 | | | ○ | 1981年4月～2006年12月 | |
| 71 | 三菱電機(株) | 1989 | FF式石油暖房機 | VKB-40ET2 又は VKB-30ET2 | ④ | 火災 | 1979～1989 | 原因不明。 排気筒付近(警察見解) | | | ○ | 1975年4月～2006年12月 | |
| 72 | 三洋電機(株) | 1989 | FF式石油暖房機 | CFP-R507 | ① | 全焼火災により、一家6名死亡。 | 不明 | 現物は調査のため、警察が持ち帰り。調査結果は不明。 | | | ○ | 1986年1月～2006年12月 | |
| 73 | 松下電器産業(株) | 1988 | FF式石油暖房機 | OK-3520A | ① | CO中毒1人死亡 | 82～88 | 施工不良(排気管外れ、固定金具なし) | | | ○ | 1987年1月～2006年12月 | |
| 74 | 三菱電機(株) | 1988 | FF式石油暖房機 | VKB-60K | ④ | 火災 | 1985～1988 | 警察・消防調査結果、原因不明 | | | ○ | 1975年4月～2006年12月 | |
| 75 | 三菱電機(株) | 1988 | FF式石油暖房機 | VKB-40ETM2 | ① | CO中毒とみられる。 2名死亡。 | 1979～1988 | 給排気筒トップのキャップ(使用しない排気口塞ぎ用キャップ)が外れていた(警察見解)。排気工事は3年前に被害者自身が行った。 | | | 工事不良 | 1975年4月～2006年12月 | |

注1：事故発生日月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故(治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病)又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故(医師の診断が下されたもの)、④火災(消防が火災として確認したもの)

| № | メーカー名 | 事故発生日 | 品目 | 型式機種 | 被害区分 (注) | 事故内容 | 製品の 使用期間 | 事故原因 | | | 調査期間 | 備考 |
|----|--------------|-------|-----------|------------|-------------|-------------------------------|-------------|--|----------|---------------------------|------------------|----|
| | | | | | | | | 内容 | 製品 起因 | 誤使用 原因不明 または 調査中 | | |
| 76 | 三菱電機(株) | 1988 | FF式石油暖房機 | VKB-40ET2 | ③ | CO中毒とみられる。 入院。 | 1978～1988 | 給排気筒トップのキャップ(使用しない排気口塞ぎ用キャップ)が外れていた。工事不良と推定(当社見解、警察へ説明)。 | ○ | | 1975年4月～2006年12月 | |
| 77 | 三菱電機(株) | 1988 | FF式石油暖房機 | VKB-40C | ① | CO中毒とみられる。 3名死亡。 | 1977～1988 | 給排気工事なし(屋内給排気)で使用された(警察見解) | | ○ | 1975年4月～2006年12月 | |
| 78 | サンポット(株) | 1988 | FF式石油暖房機 | FF-15G6 | ④ | 機器のみ焼損 | 1年2ヶ月 | 点検中油溜り・爆燃 | | | 1969年4月～2006年12月 | |
| 79 | 三菱電機(株) | 1988 | FF式石油暖房機 | VKC-451E2 | ① | CO中毒とみられる。 2名死亡。 | 1983～1988 | 排気パイプが外れていた(警察見解) | | ○ | 1975年4月～2006年12月 | |
| 80 | サンポット(株) | 1987 | 半密閉式石油暖房機 | KSH-111GTX | ④ | 火災 | | 洗濯物落下 | | ○ | 1969年4月～2006年12月 | |
| 81 | 松下電器産業(株) | 1987 | FF式石油暖房機 | OK-4500A | ① | CO中毒3人入院、1人死亡 | 不明 | 給排気筒を集合煙突に取付、お客様の工事ミス | | ○ | 1987年1月～2006年12月 | |
| 82 | サンポット(株) | 1987 | 半密閉式石油暖房機 | KSH-10KT3 | ④ | 機器、机焦がす | 3日 | 油たまり、点検不良 | | | 1969年4月～2006年12月 | |
| 83 | 三洋電機(株) | 1987 | 半密閉式石油暖房機 | CFR-35E | ① | 2名が一酸化炭素中毒死 | 不明 | 器具からすぐ出た所の煙突に簡易床暖房用熱交換器が取り付けられていたために、煙突内の排気温度が低くなり、煙突内が凍結し、排気ガスが室内に流入して、一酸化炭素中毒になった。 | | ○ | 1986年1月～2006年12月 | |
| 84 | 三菱電機(株) | 1986 | FF式石油暖房機 | VKB-40EM2 | ③ | CO中毒とみられる。 入院。 | 1979～1986 | 給排気工事不良による排気管接続部外れ(当社見解、消防署へ説明)。 | ○ | | 1975年4月～2006年12月 | |
| 85 | 日立アプライアンス(株) | 1986 | FF式石油暖房機 | KH-W43FF | ④ | 機体が焼損し、1階の柱、天井と2階床に延焼してボヤとなった | 8年 | 設置済み本体を温風が部屋の中央に来るように移動して給排気筒が外れて運転したため。 | | ○ | 1963年8月～2007年1月 | |
| 86 | 三洋電機(株) | 1986 | FF式石油暖房機 | CFR-V151C | ③ | 室内に排気ガスが流出し、2名がCO中毒。 | 2～3年 | 排気筒が外れて、室内に排気ガスが漏れて、一酸化炭素中毒を起こした。排気筒が外れた原因は不明。 | | ○ | 1986年1月～2006年12月 | |
| 87 | 三菱電機(株) | 1986 | FF式石油暖房機 | VKC-422E | ① | CO中毒とみられる。 3名死亡。 | 1978～1986 | 排気ガスを屋外に排出する為のパイプが何らかの異常で製品から外れ、排気ガスが室内に漏れてCO中毒になった模様(警察署見解)。工事不良と推定。 | ○ | | 1975年4月～2006年12月 | |
| 88 | 三菱電機(株) | 1985 | FF式石油暖房機 | VKB-40E2 | ① | CO中毒とみられる。 1名死亡。 | 1983～1985 | 給排気筒トップのキャップ(使用しない排気口塞ぎ用キャップ)が外れていた(警察見解)。工事不良と推定。 | ○ | | 1975年4月～2006年12月 | |

注1：事故発生日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故(治療に要する期間が30以上の負傷・疾病)又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故(医師の診断が下されたもの)、④火災(消防が火災として確認したもの)

| № | メーカー名 | 事故発生日月 | 品目 | 型式機種 | 被害区分 (注) | 事故内容 | 製品の 使用期間 | 事故原因 | | | | 調査期間 | 備考 |
|-----|----------|--------|-----------|-------------------------------|-------------|-----------------|-------------|---|----------|-----|--------------------|------------------|-------------------------------|
| | | | | | | | | 内容 | 製品 起因 | 誤使用 | 原因不明 または 調査中 | | |
| 89 | サンデン(株) | 1985 | FF式石油暖房機 | KA-151FF | ④ | 火災事故 | 3年 | 使用上の問題でストーブの上に可燃物があり、発火したものと報告。消防署に受理された | | ○ | | 1980年1月～2007年1月 | 製品の使用期間は該当品製造年から事故発生日までの期間を記載 |
| 90 | サンデン(株) | 1985 | 半密閉式石油暖房機 | KA-151SL | ③ | 中毒事故 | 5年 | 使用上の問題（換気扇の無い部屋で半密閉式を開放式で使用）として報告。警察署に受理された。 | | ○ | | 1980年1月～2007年1月 | 製品の使用期間は該当品製造年から事故発生日までの期間を記載 |
| 91 | 三菱電機(株) | 1985 | FF式石油暖房機 | VKB-40DT | ③ | CO中毒とみられる。入院。 | 1981～1985 | 給排気工事なし（屋内給排気）で使用された（当社見解、警察へ説明）。 | | ○ | | 1975年4月～2006年12月 | |
| 92 | 三菱電機(株) | 1985 | FF式石油暖房機 | VKB-40E | ① | CO中毒とみられる。1名死亡。 | 1981～1985 | 地下室内に給排気工事が施工されていたが、運転に不具合があったため、ユーザが排気管接続部を外して使用され、屋内給排気となって発生したCOが上部の部屋に侵入した（警察見解）。 | | ○ | | 1975年4月～2006年12月 | |
| 93 | 三菱電機(株) | 1984 | FF式石油暖房機 | VKB-40FT2 又は VKB-40ETM2 | ④ | 火災 | 1979～1984 | 原因不明。 下着が暖房機の上にあったことによると推察（消防署見解）。 | | | ○ | 1975年4月～2006年12月 | |
| 94 | サンボット(株) | 1983 | 半密閉式石油暖房機 | KSH-8BS-DK3 | ④ | 機器のみ焼損 | | 部品取り付け不良と煙突の設置不良 | | | | 1969年4月～2006年12月 | |
| 95 | 三菱電機(株) | 1983 | FF式石油暖房機 | VKB-40FTS | ④ | 火災 | 1981～1983 | 暖房機の前に油缶を置いていた（消防署見解）。 | | ○ | | 1975年4月～2006年12月 | |
| 96 | 三菱電機(株) | 1983 | FF式石油暖房機 | VKB-40E | ③ | CO中毒とみられる。入院。 | 1978～1983 | 給排気工事不良による排気管接続部外れ（当社見解、警察へ説明）。 | | | 工事不良 | 1975年4月～2006年12月 | |
| 97 | 三菱電機(株) | 1982 | FF式石油暖房機 | VKB-40E2 | ③ | CO中毒とみられる。入院。 | 1981～1982 | 素人工事で排気管接続部が外れて使用された（消防署見解）。 | | | 工事不良 | 1975年4月～2006年12月 | |
| 98 | 三菱電機(株) | 1982 | FF式石油暖房機 | VKB-40FT2 | ③ | CO中毒とみられる。入院。 | 1980～1982 | サンルームに排気口を出して（屋内給排気）使用された（警察見解）。 | | | 工事不良 | 1975年4月～2006年12月 | |
| 99 | 三菱電機(株) | 1982 | FF式石油暖房機 | VKB-40EM2 | ③ | CO中毒とみられる。入院。 | 1978～1982 | サンルームに排気口を出して（屋内給排気）使用された（当社見解）。 | | | 工事不良 | 1975年4月～2006年12月 | |
| 100 | 三菱電機(株) | 1982 | FF式石油暖房機 | VKB-40B2 | ③ | CO中毒とみられる。入院。 | 1975～1982 | 給排気工事不良による排気管接続部外れ（当社調査、消防署へ報告）。 | | | 工事不良 | 1975年4月～2006年12月 | |
| 101 | サンボット(株) | 1981 | 半密閉式石油暖房機 | KSH-8BS-1 | ④ | 2機半消失 | | 不明 | | | ○ | 1969年4月～2006年12月 | |

注1：事故発生日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

| № | メーカー名 | 事故発生日月 | 品目 | 型式機種 | 被害区分 (注) | 事故内容 | 製品の 使用期間 | 事故原因 | | | | 調査期間 | 備考 |
|-----|--------------|--------|-----------|------------|-------------|--|-------------|--|----------|-----|--------------------|------------------|-------------------------------|
| | | | | | | | | 内容 | 製品 起因 | 誤使用 | 原因不明 または 調査中 | | |
| 102 | 三菱電機(株) | 1980 | FF式石油暖房機 | VKB-40D | ① | CO中毒とみられる。 1名死亡。 | 1978～1980 | 修理未完了で使用禁止を告知してあったにもかかわらず、給排気工事なしで使用された(警察・消防の統一見解)。 | | ○ | | 1975年4月～2006年12月 | |
| 103 | サンデン(株) | 1980 | 半密閉式石油暖房機 | KS-101WE | ① | 火災事故(1名死亡) | 3年 | 使用上の問題(可燃物近接による出火)でストーブが原因でないと報告。警察署に受理された。 | | ○ | | 1980年1月～2007年1月 | 製品の使用期間は該当品製造年から事故発生日までの期間を記載 |
| 104 | サンポット(株) | 1980 | 半密閉式石油暖房機 | KSH-10BS-1 | ④ | 異常燃焼で機器焼損 | | 点検不良(イン側ナット閉め忘れ) | | | | 1969年4月～2006年12月 | |
| 105 | サンポット(株) | 1980 | 半密閉式石油暖房機 | KSH-8K | ④ | 火災(規模不明) | 約7年 | 機器内の多量に溜まった埃に着火 | | ○ | | 1969年4月～2006年12月 | |
| 106 | 三菱電機(株) | 1978 | FF式石油暖房機 | VKB-40C | ④ | ぼや | 1976～1978 | 原因不明。 排気筒付近(警察見解) | | | ○ | 1975年4月～2006年12月 | |
| 107 | 日立アプライアンス(株) | 1977 | 半密閉式石油暖房機 | OH-704 | ④ | 茶の間から出火。木造2階建て83m ² のうち約10m ² を焼損。奥様が軽傷。 | 1年2ヶ月 | 警察は製品本体に欠陥がないことを了解。但し、原因不明。 | | | ○ | 1963年8月～2007年1月 | |
| 108 | 日立アプライアンス(株) | 1977 | 半密閉式石油暖房機 | OH-702 | ④ | 茶の間から出火。木造2階建て120m ² 全焼。父親が全身大火傷。子供(弟)が軽傷。 | 不明 | 消防立会いで現品を調査。外部者の整備により、加熱防止の制御が出来なくなり、誤って最大目盛で運転したことで過熱、発火した。 | | | ○ | 1963年8月～2007年1月 | |
| 109 | サンポット(株) | 1974 | 半密閉式石油暖房機 | KSH-JBS-D | ④ | 機器のみ焼損 | 4～5年 | 整備不良(オーバーフローの油漏れ) | | ○ | | 1969年4月～2006年12月 | |
| 110 | サンポット(株) | 1970 | 半密閉式石油暖房機 | KSH-100BS | ④ | 機器焼損 | 3年 | 燃焼モータの過熱 | | ○ | | 1969年4月～2006年12月 | |
| 111 | サンポット(株) | 1970 | 半密閉式石油暖房機 | KSH-100BS | ④ | 機器焼損 | 3年 | 燃焼モータの過熱 | | ○ | | 1969年4月～2006年12月 | |

注1：事故発生日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故(治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病)又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故(医師の診断が下されたもの)、④火災(消防が火災として確認したもの)